



岐大通

2012J2 順位表 第9節
勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の
戦績 (岐阜から見て)

1 湘南	25p	+11	22	11	A
2 山形	19p	+3	12	9	
3 京都	18p	+5	14	9	H
4 甲府	17p	+5	13	8	
5 東京V	16p	+6	14	8	
6 大分	16p	+5	14	9	H
7 水戸	15p	+4	8	4	
8 栃木	15p	+3	11	8	A
9 岡山	15p	+1	8	7	
10 福岡	14p	+5	17	12	
11 千葉	14p	+5	10	5	
12 北九州	13p	0	8	8	H
13 愛媛	12p	+4	11	7	
14 草津	12p	-2	8	10	H
15 松本	10p	-5	6	11	
16 熊本	8p	-5	9	14	A
17 徳島	8p	-7	6	13	A
18 町田	6p	-3	7	13	
19 横浜FC	6p	-7	7	14	
20 岐阜	6p	-9	5	14	==
21 富山	5p	-5	10	15	
22 鳥取	5p	-11	6	17	H

today's guest : 横浜FC 2011 J2 1勝8分1敗 勝ち点41 第18位

Jリーグ“オリジナル10”のメンバーである『横浜フリューゲルス』の『横浜マリノス』への合併に際し、フリューゲルスのサポーターの活動により設立。設立当初は“ソシオ制度”によるクラブ運営など、独自色が際立っていた。設立時点よりJリーグ加盟に対する強い志向を持ち、特例によりJFL準加盟として創部1年目より全国リーグで活動。JFL 2連覇(2年間で3敗しかしなかった)を経て200年にJリーグ加盟。2006シーズンの開幕戦の敗戦で監督が高木琢也氏に交替(第1戦終了での監督解任はJ初らしい)すると快進撃をみせ、見事にJ2で優勝、J1昇格を果たすが、翌年は最速でJ2への降格を決めてしまう。2012年は第3節の敗戦で岸野監督が解任となり、今シーズンの監督解任第1号となる。新監督は、『横浜フリューゲルス』最後のキャプテン・山口素弘氏。(吉田鑄造)

4/15のホーム北九州戦で嬉しい今季初勝利を挙げたFC岐阜。続く4/22のアウェイ栃木戦では連勝を目指したが、惜しくも引き分け。しかし、アウェイの地で上位相手に勝ち点1を積み上げることができた。これで順位も上がり、現在は20位。ここ数試合は自分たちのサッカーが徐々にできており、選手も手応えを感じているだろう。まだリーグは序盤戦。チームに勢いが出れば、まだまだ巻き返すことが十分可能な時期だ。ここからのFC岐阜の奮起に、『長良川劇場2012』開演に期待だ。

さて今節は、10日間で4試合を戦うという、今年のスケジュールで最も厳しいGW日程の初戦だ。ここで流れを掴んで勝ち点を積み上げ、上位を目指すことができるか、その勢いをつけるためにも負けられない一戦だ。その対戦相手は、“キング”カズことFW#1三浦知良を擁する横浜FC。現在は勝ち点6で19位と、岐阜と同様に下位に低迷しているが、前節では京都を2-1で破り、初勝利を挙げて調子が上がってきているチームだ。3/22から指揮を執る山口素弘新監督の元、徐々に結果が出てきているという点も岐阜と似ている。しかもFW#34田原とFW#39“ジャンボ”大久保の2トップは、J2屈指のポストプレイヤーコンビだ。京都を倒したツインタワーを、岐阜のDF陣がどうやって封じ込めるのが、勝利の鍵だ。

もう一つの鍵は、やはり攻撃陣の奮起だ。ここ3試合で2点と、試合内容の割には少し物足りない。もっと貪欲に、積極的にゴールを狙う姿勢が欲しい。そうすることで、勝利の女神は微笑み、おのずと結果もついてくるだろう。やはりホーム長良川ではFC岐阜の勝ちが見たいし、勝ってくれると信じている。(ささたく)

Looking back 2011

第12節 5/14 @横浜・ニッパ球
1-1 得点者: 佐藤

下位低迷同士の戦いは、まさに内容的にも相応しい凡戦に。洗一のヘッドで先制も、オウンゴールで追いつかれてドロー。しかもその際に恭平が負傷し、村尾がゴールを守ることに。柏から川浪をレンタル移籍で獲得する契機となった。

第3節 10/5 @長良川
4-3 得点者: 嶋田、OG、染矢、西川

雨の中の撃ちあい(バカ試合ともいう)を制した。キレイレの動きだった阪本を監督が下げちゃう(苦笑)とか、染矢のPKが1度防がれたけど蹴り直しさせてもらえたとか、なにかと“イベント”の多い試合は、後半アディショナルタイムの西川のゴールで決着。次のホーム戦の勝利は、先週の北九州戦。(吉田鑄造)



本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

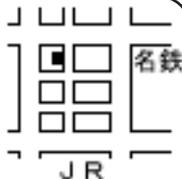


何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休: 日曜日(今日は営業しています)



投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

次回 HomeGame

第12節 水戸ホーリーホック戦

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

5/3(木) 19:00

【第8節】岐阜 1-0北九州

いや～、長かった。勝利の喜びを味わうのは簡単じゃないとわかっているつもりでも、ジリジリとする重苦しさはなかなかのものだった。昨季とは違う。そう思っているけど、ほんと構えて待つのは難しいね（苦笑）。

リーグ戦での初勝利を挙げるために要した試合数はクラブ史上最多。カレンダー的には去年のほうが遅いけれど（確か4月30日・ホーム水戸戦）、あれは3戦目。無失点勝利は昨季のアウェイ栃木戦以来で、ホームでのそれは一昨年の大分戦以来らしい。その時はメドウだったから、長良川での無失点勝利となると2009年の7月まで遡るんだとか（あと、この年の10月に行われた天皇杯で栃木に1-0の完封勝ち。）改めて、長かったな……とシミジミ。なにしろ、勝利はもちろん、先制したのも初めてだもんね。殊勲の得点を決めた廣田はこれが「初ゴール。プロ入りして最初の得点なんだから、喜びもひとしおというところか。後日放送されたインタビューの初々しさに思わず顔がほころんでしまったよ。高校を出て、いきなり知らない町へ来てユース時代よりも環境の整わない中で、いろいろ不安もあっただろうがこれをキッカケにどんどんゴールに絡んでいってほしい。なんのかわかんないけど、ここまで全試合スタメン出場を果たしているのがスバラシイ！今度ゴールを決めた時には、恒例？のハンドマイクで一言聞かせてほしいなあ。

それから、行徳監督も就任後初勝利おめでとうございます！以前の代行監督の時の成績はわからないけど、とりあえず安堵の胸をなでおろす、といったところかな？いきなり、関田をCBで先発起用したりと大胆な用兵に驚かされたりもしちゃってますが、こちらもそれなりの経験を積んできたんで、たいていのことは許容できます（笑）。これからも、どんどんチャレンジしていってほしいですね。ひとつでも多く勝ち点を積み重ねるために、FC岐阜にかかわるすべての人が一丸となって邁進しましょう！（ぐん、）

行徳監督は池田も樋口もはずしてきた。セッキーをCBで使ってきた。ハンジェとマサトの初登用。結果が出てないのだから変えてみるのは当たり前（去年はそれすら出来てなかったのだ……）なんだけど、監督はスタメンでは仕掛けるけど選手交代で仕掛けるタイプではなさそうってのはこれまでの戦い方でわかってたけど、でもここまでいじってくるとは。

ところが、この「ハンジェが後ろ目でハットさんが前目」の布陣がワンボランチ（元・岐阜の新井でした）の北九州のシステムにピッタリハマって、中盤でボールが拾いまくれる。あまりに拾えるので、「もしや敵将・三浦ヤス監督の策なんでは？」と疑ってしまったくらいだ（笑）。

それでも前半はタイラが決定機をフカしちゃったりで点が入らなかったけれど、ついに後半に今季の「リーグ・40チームで最後となる『先制点』」。中央でハンジェのシュートがDFに阻まれたこぼれを拾ったマサトがふわっとパスを出すと廣田がフリーだった（その左に村上もフリーだったけど彼が受けたらオフサイドだったろう）。胸トラップして右サイドネット内側に綺麗に蹴りこんだ。

その後の北九州の反撃を凌ぐ岐阜。この日の行徳監督の交代策はすべて納得できるものだったけど、トリプルボランチの4-5-1にまでして必死に守る。軍服隊のチャントも必死だったし、メインスタンドも必死だった。去年はホーム戦の勝利は後半終了間際の決勝点が多かったの、この「スタジアムが一体となった1点を守り切るギリギリの闘い」は久しぶり。だから、笛が鳴った時の歓喜の爆発もまたすごいものだった。

ホームでの『クリーンシート』（野球の『シャットアウト』はサッカーではこう言うそうです）は2年前の秋の@メドウの大分戦以来。その喜びもあるけれど、個人的にはようやく「『昨年のFC岐阜』との対比」から解放されたような気がするの、とにかく嬉しい。（吉田 铸造）

去年とは違い、今年のFC岐阜はスタメン発表でワクワクさせてくれる。負けた次の試合はメンバーが変わり、チームとして「勝つために工夫している」というメッセージが伝わってくる。また、そうすることで選手間の競争も活発になり、チームの状況も伝わってくると僕は思っている。さて、前節は京都相手にロスタイムで失点し、非常に悔しい敗戦となったが、北九州戦は…って正直、僕にはかなりのサプライズだった（苦笑）スタメン発表。FWでプレーに迷いが出ていたように見えた#10樋口を外して#15山崎ってのは新聞記事からも想像できたし、#3池田 #2関田っていうCB変更も、まあわかる。しかし、ここまでベンチ入りもしていなかった#8ハンジェがスタメンとは…！と思ったのだが、これが見事にハマる。#6服部とハンジェの両ベテランが（考えてみたら、元・日朝代表のダブルボランチって、実はかなり豪華なんじゃないかな…？）中盤のバランスをとった影響で、SBの#2明弘と#2村上が、「おいおい、できるんなら普段からこれぐらい上げられよ！（苦笑）」ってぐらい、ぐいぐいとオーバーラップしてくる。その他の選手も、いつも以上に激しく相手にプレスをかけ、ピッチを駆けめぐる。ウチの選手たちの、「勝ちたい」という渴望がはっきりと伝わってくる動きだった。更に、今までは4-4-2の布陣だったのが、これを4-3-3（あるいは4-2-3-1？）に変更したのも功を奏したと思う。今まで空いていたトッパ下のエリアでボールを拾えるようになり、4連勝中と好調の北九州を相手にしながら、彼らの自由にサッカーをさせていなかった。こうなると、あとは先制点。前半39分には、#14村上がゴール前で決定的シーンを得るが、しかしボールはゴールバーの上へ…（苦笑）。この時、僕は膝から崩れ落ちたことを告白しなくてはならないだろう（苦笑）。タイラ…決定機を作り出すのは得意なのに、決定力は不足してるってのは、（特に1年目の）ウチの14番の系譜なのか？（笑）しかし後半10分、遂に待望の瞬間が訪れる。相手ゴール前でこのぼれ球を山崎が拾うと、フワリと浮き球を廣田に供給。これを廣田が胸でトラップし、ボレーでゴールに流し込み、先制点！ホームではなんと開幕戦から1ヶ月半ぶり、廣田のプロ初ゴールに沸き返るスタジアム。先制点をとって気が楽になったのだろう、更に動きが良くなる岐阜の選手たち。タイラはいいミドルを撃ったし、明弘もゴールラインまで深く攻め上がったが、惜しくも追加点には繋がらない。終盤は、1点を守り切ろうと4-5-1の3ボランチにしたけど、さすがに選手たちの足が止まってきたためか、あるいはDFラインが下がりがすぎってしまったからか、北九州の猛攻を受けることになった。ハラハラした長い（でも、録画で見ると意外に短かった…）時間を耐え、遂に、遂に、今季初勝利を告げる試合終了の笛！！歓喜に揺れるスタンド。超久しぶりのアイーダ（凱旋行進曲）。それもそのはず、勝利は昨年の11/6アウェイ岡山戦、ホームだと10/14横浜FC戦以来、（3ヶ月間のシーズンオフが挟まっているけど）なんと半年ぶりの勝利。そりゃ嬉しすぎて、喜び方も半端ないってものだ。みんなでする「万歳四唱」の甘美なことといったら…そして、挨拶に来てくれた選手たちの何人かは、目が赤かったように…いや、実は僕も（苦笑）。

やはり勝利は素晴らしい。スタジアムに集う（相手サポ以外の）全ての人を笑顔にしてくれる。開幕から8戦未勝利と苦しい状況が続いたけど、それは監督・コーチも選手たちも大幅に入れ替えたのだから、序盤の苦戦は仕方ない（それでも辛かった（苦笑））。やっと、「今年のFC岐阜の形」が見えてきたような気がする。これから勝利を重ねて、順位の巻き返し、そして昨年のリベンジを果たして欲しい。そのためには、より多くのサポーターでスタジアムを緑に染めて、選手の後押しを！今節（横浜FC戦）も勝って、ホーム連勝といきましょう！（ささたく）

【第9節】栃木 1-1 岐阜

やっと、やっと待ち焦がれた初勝利を挙げ、ひとしきり喜んだ次の週には（これがサポの欲張りなところのだけれど（苦笑））、さあ今度は連勝だと栃木に乗り込んだんだけど...最近の岐阜が暖かかったものだから、栃木は寒かった...しかも、（またしても）小雨が降る中での試合。アウェイでの雨は着替えとか大変なんだよなあ...（溜息）。しかし、そんな嫌な気持ちを吹き飛ばす、#14井上平の初ゴール！！前半44分、相手のDFが油断した隙を見逃さずにボールを奪い、左足で放った無回転のミドルは相手GK武田の手を弾き、ゴールネット左隅に転がり込んだ。やっと決めてくれた。そしてやっと解禁された、平のチャント。これから何度でも歌いたいねえ...と、良い気分で終了した前半。

しかし、やはりというか勝負は甘くない。後半になると、（投入されたMF#7パウリーニョが効いてたのかな）徐々に栃木がボールを支配する展開に。雨が強くなってきたためもあるのか、後半の岐阜は、あまりセカンドボールが拾えなかったり、パスが繋がらなかったり。それでも、後半07分に洗一が、これまた相手DFの隙を突いてボールを奪って放ったシュートは、飛び込んできた相手選手の足に当たって惜しくもコーナー。あと少し、シュートが早く撃てていたら、あれが入っていたら...と、「たられば」したくなる決定機だった。栃木の勢いは更に強くなり、何度も岐阜のゴールを脅かしていたが、後半23分からダイレクトプレーで上がったクロスで、相手FW#9サビアがヘッド。マークが外れかけていたところにボールが上手く入ってきて、決められてしまった。その後は、互いに決定機を迎えるも（というか、うちの方が決定機はあったと思うんだけど）、互いに譲らず、試合終了。

勝ちたかったし、あと少しだけ運があれば勝てる試合だった。でも、アウェイで3連勝6戦負けなしの上位を相手に、引けをとらない試合をして、勝ち点1を奪えたのは、それほど悪くない結果だと思う。だから、岐阜のサポーターは（最初から）拍手で選手を迎えたのに対し、栃木側は（最後には拍手していたサポも多かったように思うが）沈黙あるいは怒りの声だったように見えたのは対照的だった。まあ、向こうにしてみたら「下位の岐阜には勝てるだろ」みたいな思いがあったらうし...（苦笑）。

ともあれ、GW連戦に向けて、サッカーの形が見えてきたFC岐阜。この連戦は下位チームとの対戦も多い。勝ち点を積み上げて順位躍進のチャンスだけど、それは（今回の栃木と同様に）相手だって考えているだろう。10日間で4試合の過密日程だけど、誰が相手でも油断せずに目の前の勝利にこだわり必死に戦って、FC岐阜にとって本当の“ゴールデン”ウィークにしてほしい。そのために、僕らも全力で声援を送って選手の後押しを！そして勝利の喜びを分かち合おう！（ささたく）

FC岐阜サポによる ゲリラ的Ustream配信番組

今シーズンからのサポーター発信企画として、基本的にホーム戦の前日に、インターネットの動画共有サービス「Ustream」を利用した手作り感満載の番組を下記アドレスで放送しています。サポーターの『生の声』をお楽しみください。

<http://www.ustream.tv/channel/sstak12-fcgifu>

次回は5/2(水) 21:00開始の予定です。

できれば終了後のあいさつの時に、タイラ・チャントを高らかに歌いながら迎えてあげたかったな。開幕からこの方試合前のミーティング等でタイラのチャントをずっと準備してきてたんで、ゴールが決まった瞬間から堰き止められていたエネルギーがイッキに流れ出したようなゴール裏のハジけっぷりが心地よかった。

それだけに1-1のドロウという結果は残念でしかたがない。もちろん、栃木にもあわやのシュート、それも和正のがあったり、それ以外の決定機も作られたことは承知しているが、こちらもそれ以上のチャンスがあっただけに悔しさが残るのは否めない。ことに、後半開始早々の洗一のシュートが決まっていたら追いつかれることもなかったんじゃないか？たぶん、というような気もする。あくまで主観ですが、アレを外した分終了間際の決定機にシュートではなく、卓へのパスを選んじゃったんじゃないのかな？卓にとっても絶好の場面だったが、逆にまさかパスが来るとは思ってなくてあわてて足を合わせたようなシュートしかできなかつたようにも見えた。いずれにしても、洗一にはゴールを量産してほしいワケで、そのためには後半開始早々のチャンスは確実に決めてほしいし、終了間際の場面は多少強引でも自ら決めにいてほしい。とはいえ、この試合を含めようやくペナルティエリア内での仕事、そしてロングボールにも競り勝てるようになってきた感じがする。これからは、どんどんゴールを叩き出してくれるんじゃないか。洗一のエロいゴール（笑）を楽しみにしている。そして、今度は長良川でタイラチャントを歌い上げたい。試合の後に思いっきり！ここ2試合、守備が締まってきていると思う。特にハットとハンジェが効いているので明弘のサイドアタックも効果を発揮し始めているんじゃないか。これから黄金週間にかけて、今季をにらむ上で負けられない相手との試合が続く。ここが前半戦の正念場になっていくので、是が非でも勝ちたい。まずは、ホーム連勝といきましょう！（ぐん、）

【ユース】公式戦が始まりました

まずはお詫びから。『岐大通』京都戦版で4月14日のFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）の試合開始時間を「14時」と書きましたが、実際には「10時」キックオフでした。これは県サッカー協会が発表された時間をそのまま記事にしていたのですが、当日の実際の試合開始時間は違っていました。小生の記事を参考にして現地に行かれた方が見えたら、大変申し訳ありませんでした（因みに私は観戦出来ませんでした（涙））。

さて、我らがFC岐阜ユースは県リーグ戦とクラブユース選手権1次予選の試合を各1試合ずつを消化しています。

【県G2リーグ】4/14対各務原高校 B 2-1（前半1-0、後半1-1）

【クラブユース1次予選】4/22対尾張クラブ 2-0（前半1-0、後半1-0）

尾張クラブとの試合は現地で観戦しました。正直個々の選手の力量は尾張クラブの選手よりFC岐阜ユースの選手の方が上で、ボール保持時間は岐阜ユースが大半を占めていました。でも守備固めした相手ゴールを中々割る事が出来ず、結局2対0で終了。一点目の磯村選手のミドルシュートは見事な物でした（パチパチ）。これから県リーグでもFC岐阜ユース相手に守りに力を入れるチームが増えると思いますが、そういったチームに対してどう崩して得点に結びつけていくかが今後の課題になる気がしました。

FC岐阜ユースのGW中の試合予定は次の通りです。

【県G2リーグ】5/6岐阜北高校戦@岐阜北高校

【クラブユース1次予選】4/29愛知FC戦@名古屋経済大学

愛知FCは昨年も1次予選を2位突破している強豪チーム（FC岐阜ユースは3位通過です）。1次予選の山場の一つになると思います。頑張れよ、応援しているから！

FORZA! FC岐阜ユース!! (シュナ)

高山で広報活動をしてきました。

先日の21日、高山市にチラシ配布に行ってきました。アウェー富山戦(TOP OF 北アルプス)を前に、普段FC岐阜の試合を見る機会の少ない飛騨地方の方にも来場頂こうという目的によるものです。チラシ配布は清水屋ピュア高山店とアピタ飛騨高山店の2箇所で行われ、岐阜からのサポーターのほか、地元高山のサッカー少年団の子供達や富山のサポーターさんも駆けつけていただき実施されました。高山の方々はチラシを受け取っていただく率が高く、非常に有り難かったです。中には優しく言葉を掛けて下さる方もいらっしゃいました。岐阜と飛騨地方ではどうしても距離的な制約が付いて回りますが、こういった取り組みが観客増に繋がってほしいなと思いました。(岐阜の誇り)

『予算管理団体』指定を受けて

昨年もユニフォームスポンサーは全部付きませんでした。去年の入場者数(特に有料入場者数)が未達成だった事も聞いています。であれば、前年比増となる予算を組む時の収入見込については「努力する・頑張る」以外の根拠はあったのでしょうか?

スポンサーが付かなかった事や入場者数の減少は全てクラブの中の人々の怠慢だなんて全く思っていません。厳しい経済・地域状況、複雑な利害関係等の中で努力して頂いた結果だと思っています。でも、いや、だからこそ損失補てんをしてくれる親会社が無いFC岐阜は身の丈に合った経営・予算見込をして頂きたい。

「クラブとしての体勢を整える為」「JFLへの降格は出来ない」という理由も理屈としては判ります。「J1を目指す」という夢を語るのも物凄く重要だと思います。でも根拠の無い背伸びをした為にクラブが無くなってしまっただけは元も子もないのです。

まずは今回の危機を乗り越える算段をしましょう。そして身の丈に合った経営で地元の誇れるチームを作り上げていきましょう。当然自分に出来る事も考え、行動していきます。(ヤックル)

【セカンド】天皇杯/全社岐阜予選

岐阜県ではリーグ開幕前の4月に集中して天皇杯/全国社会人大会の県予選が行われます。去年の地元開催・岐阜全社でベスト8のセカンド、県予選では負けられない。北九州戦の行われた15日の昼過ぎから杭瀬川グラウンドで各務原BROTHERS戦が行われたので観戦してきました。結果は13-0。そもそも実力差があり、でもそういう場合にはいわゆる“緩んだ”試合になってしまうこともあるのだけれど、伊藤哲也監督は厳しく臨んでいます。実力差がある上に選手がサボらない。大量点も納得。開始1分の中村豪君の左脚一閃のボレーに驚いたけど、とにかくこの日はFW遠藤がキレキレでなんと8得点。でも、“トリプルハット”の期待もかかったシュートはゴール前50cmから大フカシ(打ち上げ角78.4度)。本人は「(あのミスで)交替させられるかと思った」と恐縮していました。昨年までのエースだった細野が関西1部・バンディオンセ加古川に、CBの東間は東海1部のライバル・FC刈谷に移籍。数名の補強で臨む今シーズン、注目はザスパ草津で昨年までずっと主力だったDF田中淳と、かつてはAFCユース選手権で八咫烏を胸に戦った(イラン戦でスタメン出場。榎野(浦和)内田(独シャルケ)らとDFライン形成)こともある柳澤隼。在籍中の村松も含めた3人の“ジュン”(笑)に、セカンドからロアッソ熊本に移籍し『J』を体験した片山朗も戻り、選手層は東海1部でも屈指。藤枝MFがJFLに昇格して“本命不在”とも言える今年の東海1部でセカンドが風を起こす!(吉田鑄造)



コラム『編集人から一言』

「家に帰るまでが遠征です」

アウェーの試合でも駆けつけて応援をする--サポーターは間違いなく「旅行」頻度が高くなります。敵地で勝利のサポートが出来れば多少の疲れもなんのその、高揚感を持続したまま帰ってくることも出来るけれど、もし敗戦の後だったりすると疲労も倍増、帰宅の途は厳しい道程になります。

そんな移動族サポーターの中で金言となっているのが『帰宅するまでが遠征です』。つまり、「家に帰るまで気を抜いちゃいけないよ」ということで、まあ当たり前なことなんですけど、前節・栃木戦を1-1のドローで終えて帰ってくる岐阜サポーターで1人、“やらかして”しまった奴が現れたのです。

疲労の中で、電車を乗り継ぐ間に東京で仲間と“感想戦”という名のお疲れ宴を軽く行い、勢いで日本酒に手を出してしまった彼は東京から新幹線に乗って西へ。遠征の疲れに酒が心地よく作用、岐阜市に住む彼が目覚めたのは『京都』だったのでした……。彼は在来線で米原まで戻り、栃木遠征に参加しなかった大垣在住の岐阜サポーターが深夜にクルマで米原駅まで迎えに行き、なんとか彼を自宅に送り届けることが出来たのでした。

この『帰宅するまでが遠征です』は、読者の皆さんの生活にも十分に生きる金言だと思います。「帰宅するまでが旅行です」「帰社するまでが出張です」などなど。どうしても帰り道は疲労や目的の達成感もあって緩みがちです。油断は大敵、緩むのは帰ってから、ゆっくり。(吉田鑄造)